

大規模な地拵えが必要無いブナ林再生手法の提案

黒松内岳ブナ林再生プロジェクト

会長 新川 幸夫

茂尾 実

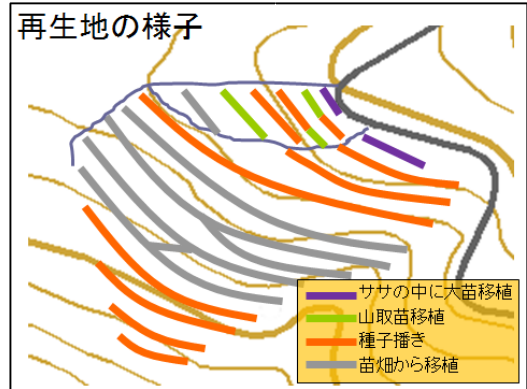
斎藤 均

1. 課題を取り上げた背景

ブナ北限の里「くろまつない」の一つのシンボルである黒松内岳（標高 739m）の山腹には、元々あったブナ林が伐採され、その後森林の更新がうまくいかず、一面のササ原やブナ以外の樹木の疎林になってしまっている場所が多く見られます。そこで、元々あったブナ林を再生しようと 2007 年より本格始動したのが本プロジェクトです。

プロジェクトの主な目的は、「黒松内岳に元々あったブナ林を再生すること」「北限域におけるブナ林再生技術を確認すること」「地球温暖化防止に貢献すること」などです。

後志森林管理署と協定を結び、国有林内の昔ブナを択抜した落葉広葉樹の疎林 4ha を再生予定地としてご提供いただき活動を行っています。

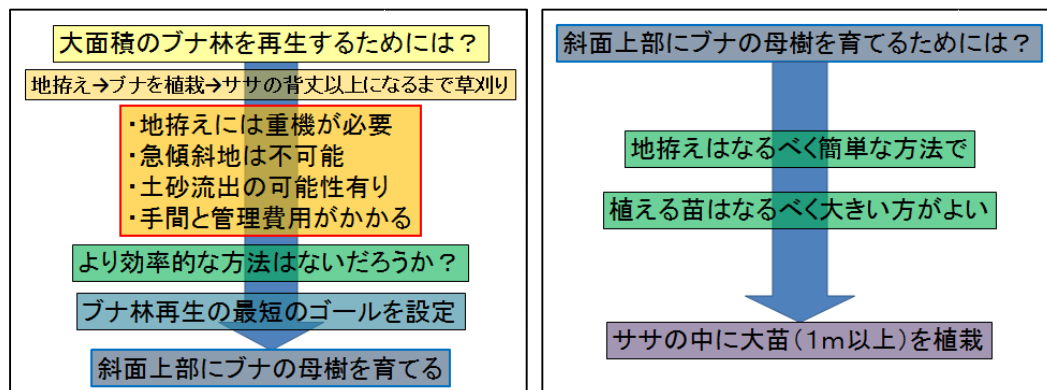


2. 取組みの経過

2012 年度の主な活動内容は、以下の通り。

- ・講演会、総会（毎年、総会と同時に森づくりに関係する講演会を実施。今年は森の写真家「水越武」氏による講演）
- ・札幌オータムフェストのいろはすエコまつり（コカコーラ）
- ・ブナ林再生植樹ツアー（ブナの大苗植樹＋黒松内岳登山ツアー実施）
- ・種子集めは中止（凶作のため）
- ・ササの中に植栽した大苗の生長調査

昨年度までの 5 年間の活動から、大面積のブナ林を効率的に再生するためには、斜面上部にブナの母樹を早く育てて斜面のササの一斉開花枯死を待つという手法がよいという提案をしました。今年は斜面上部のササの中に効率的にブナの母樹を育てる一手法を試行しました。



3. 実行結果

■ササの処理について

昨年度ササの中に大苗を植栽する際、鍬がササに引っかかり、力が入らなかったため重労働でした。そこで、ササを2m×5mくらいのブロック状にロープでしばり、ブロックとブロックの間の幅1mの部分のみ、ササを剪定ばさみで刈りました。この方法だとブナの大苗を植栽する1m×5mの帯を作るのに、2人で30分程度しかかかりません。

■ブナの大苗植栽について

山取りしたブナの大苗約30本を約1m間隔で植栽しました。そのうち10本の根元に肥料をまきました。植栽後に、ロープをはずすと、ササが大苗を支えてくれるので、風よけにもなります。

■大苗の生長調査について

2011年秋に植栽した大苗は、今年は極端に生長が悪くなりました。

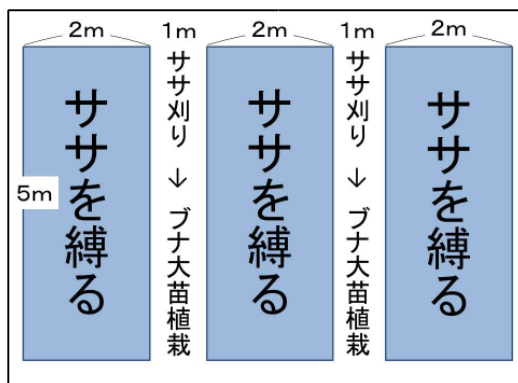
4. 考察

ブナ林再生の最短のゴールを「斜面の上部もしくは尾根部に、母樹を育てること」と設定し、この方法でブナを植栽することで、自然への負荷を最小限に抑えることができます。また、ブナの葉とササとが触れ合うことで、ブナの伸長生長が促されることが期待されます。今後は、植栽ブナの生長調査を継続し、施肥の効果の有無なども調べていきます。

なるべく自然への負荷を少なくし、最小限の労力で最大の効果を生む手法を今後も模索していきたいと思います。



ご静聴ありがとうございました
来年度のTVCMに使われるかもしれない写真
(1月20日現在、10/50団体まで絞り込まれている)



ササの中に大苗(1m以上)を植栽

ブナの大苗5本、植栽するのに必要な労力
ササを縛る
1m×5m分のササを手刈り
5個、穴を開ける
5本、山取苗を掘り取る
植栽する

大人2人で
約1時間

植栽後は

- ササが支えになり、風などから守ってくれる。
- 周りのササと葉が触れることで、伸長生長が促される。
- 草刈りなどの管理は不要。